

神戸港で習得したクレーン技術を ラオスの人材育成に

～日本国内の建機リース業界へ海外展開モデルを提示～

国際協力機構(JICA)は、盛興業株式会社(神戸市灘区、盛裕喜代表取締役)が提案する「建機オペレーター育成と建機作業請負事業化に関する基礎調査」(ラオス)を採択しました。

ラオスでは、クレーンやブルドーザーといった建機の高い運転技術を持つ現地オペレーターが存在しないことから、ダムや発電設備などのインフラ建設現場においては、近隣のベトナムやタイから建機とオペレーターを呼び寄せている状況です。

同社は1971年の創業以来、神戸港において荷役業務を展開し、その技術と品質が長年にわたって高く評価されてきました。建設現場でのクレーン作業のほかプラント機器運搬や据付など一連の物流事業、建機オペレーターの育成にも豊富な知見と経験を有しています。

今回採択となった案件では、ラオスにおいて、安心安全で効率性の高い作業を可能にするオペレーターの育成や、講習・免許制度の整備を目指し、基礎情報の収集と事業計画の策定を行います。同社の取り組みは、日本国内の建設業界にも新たな海外展開のモデルを提示するものとして期待されます。

ぜひ取材をご検討ください。

本調査は、日本国内の中小企業を対象とした「JICA 中小企業海外展開支援事業～基礎調査～」*として実施予定。今後、契約交渉を経て契約に至ったものから順次調査を開始します。



「世界一のクリスマスツリー」の陸揚げの様子
(神戸港にて撮影)

* 基礎調査は、優れた製品や技術力を有する中小企業が、途上国に進出することによる開発課題解決の可能性及びODA事業との連携可能性を検討するためのもの。企業は、検討に必要な基礎情報の収集と海外展開事業計画の策定を行う。2017年度第2回分は今年9月に公示を行い、全国で12件が採択。https://www.jica.go.jp/press/2017/20171226_01.html

【本件に関するお問い合わせ先】

JICA 関西 企業連携課

担当/松浦鈴香

TEL : 078-261-0397

e-mail : Matsuura.Suzuka@jica.go.jp



『私たち JICA 関西は、途上国と関西を信頼でつなぎ、ともに「持続可能な開発目標 (SDGs)」の達成に貢献します。』

本案件は、技術的・職業的スキルの習得を促進し、SDGs 目標 4 に貢献するものです。

